

■ 令和2年度 男女共同参画審議会 第4回策定部会

日時：令和2年10月1日（木）午後3時から

会場：新潟市役所分館5階 555会議室

①計画案について

（事務局）

- ・「さまざまな困難を抱える女性に対する支援」について説明。

（部会長）

- ・タイトルについて、「ひとり親家庭やさまざまな困難を抱える男女への支援の充実」の「男女」を「方」に変えてはいかがか。

（田中委員）

- ・再掲方式で目標4と6に分けたことはよい。

（井上委員）

- ・目標6のタイトルで「安心・安全」と貧困がつながってこない。

（事務局）

- ・「安心・安全」を、「生活上の困難」「貧困」といったような、ここの記載内容に結びつくようなタイトルに検討する。

（事務局）

- ・性の多様性に関する記述について説明

（部会長）

- ・市の男女共同参画推進条例に沿う形で、男女間の格差をなるべく是正する、等しくしていくというような観点から、「男女」という言葉を入れ込んでいるという認識でよいか。

（事務局）

- ・その通り。

（田中委員）

- ・男女と記述することにより、性的マイノリティへの配慮に欠けるようなことになってしまう。国の法律や計画に準じるのではなく、新潟市としての行動計画にしてはいかがか。

（鈴木委員）

・上手に入れる方法があれば、こんなことにもきちんと課題意識を持っていることを記述できたらよい。

(井上委員)

・そこを変えると全部変わってくるという大きな問題。どこかで、それが読み取れるようにしてはいかがか。例えば第3章、目標1の人権尊重や理解促進のところに多様な性への理解促進も入れるなど。

(事務局)

・人権の計画に性的マイノリティに関する取組を記載しているので、男女の行動計画には記載しないという、それぞれの守備範囲を決めていきたい。

・基本的に男女間の制度差などは、「男女」という表現であるが、例えば「その人らしさ」「自分らしさ」という表現もある。あくまで男女間の格差の違い、性差に起因した問題を取り上げているという軸を変えず、できれば性差に起因した問題については「男女」とした上で、性的マイノリティの方へ配慮した言葉遣いで全体を統一したい。

②指標案について

(事務局)

・指標案と考え方などを説明

(井上委員)

・小学校、中学校の校長、教頭の女性の割合が参考指標で、学校園の管理職割合が成果指標の理由は、教育の現場が重要なのだとしたら成果指標でもいいのでは。

・「男性の育児休業取得率」が令和元年度が8.4パーセント、3次計画の目標は13パーセント、達成はしていないけれども4次で30パーセントに持っていく理由は。

・要介護認定者の数が参考指標となっているが、この数が多いほうがいいのか、少ないほうがいいのか、分からないようなものが果たして指標と呼べるのか。

(事務局)

・3次計画でも参考指標にしていた小中学校の校長、教頭における女性の割合はそのままにして、成果指標として教育ビジョンで掲げる目標を成果指標とした。参考指標のほうが細かいので内訳としてみてほしい。順番はあとで並べ替えるので、成果を先に持ってきて、内訳ということで出したい。

・男性の育児休業取得率は、最近の伸び率で試算すると13パーセントを今年か来年あたりに達成する見込み。5年後に30パーセントをとって、国と合わせてやっていきたい。

・要介護認定者数は増えたからいいとか減ったからいいということではなく参考数値。介護離職は今後増加することが見込まれるので、要介護認定者数の状況を見る数値として考えている。

(鈴木委員)

・目標3の女性の有業率の年齢の設定は。

(事務局)

・国の計画がM字カーブを解消するために25から44というところを把握しているため、国に合わせて把握していきたい。